

第3回まちづくり検討委員会議事録

と き：平成21年10月6日（火）13：30～15：45

ところ：市役所2階第2会議室

1. 開会

○ 市民協働推進課長

○ 会 長

今日が3回目の委員会となるが、この3回目までは全体的な状況を共有し、今日の後半からいよいよ中身について入っていくことになる。活発な議論をお願いする。

【事務局】

資料1 説明

○ 会 長

統計上の予測ではあるが、全体として人口は伸びるが、高齢化は進んでいく。ただし全国に比べると緩やかなようだ。地区別でも説明があったが、地区によってスケールが違うので、注意しておきたい。質問や意見はないか？

○ 委 員

田代地区は弥生が丘地区を別個に表示してほしい。将来的にもひとつの拠点となるので。

○ 会 長

この前もパナソニック関係の企業が山梨に移ったが、このようなことがいつどこで起きるかわからない。

○ 委 員

他の会議で鳥栖市の人口目標は8万人と聞いた。10万人位でもいいのでは、と発言した覚えがある。市報を調べるとこの半年で千人増えている。単純計算すると8万6千人位になる。今日の資料ではちょっと低いのではないかと思う。

【事務局】

今の動態をそのまま加味していくと、人口は多くなります。国立の研究所が出している推計人口に近づけるように補正をしています。

○ 会 長

今のマスタープランの最終計画年次は？

【事務局】

平成22年度です。

○ 委 員

弥生が丘は高齢層が多く若年層が少ない基山のけやき台のようにはならないと思う。将来的に弥生が丘は田代地区から独立するだろうが、田代地区では若年層の比率がどっと落ちる。

○ 委 員

企業も今苦しんでいるようで、果たして今後もどんどん企業が進出して来るかといえば、どうかと思う。今後の景気次第だが、人口はあまり増えないと思う。

○ 委員

私の住む地区は調整区域なので、分家以外新しい家は建てられない。新しい町は子供が増えるが古い町は子供が少ない。

○ 委員

鳥栖市は何で住みやすいのかな、ということのを他の委員と話した。商業も活発だし。住みよいて感じている人はずっと住み続けるし、若い人たちが戻ってきてくれるというのも、人口増の数字に表れているのではと感じた。

○ 会長

先日の視察先でも「帰ってきたい」町にしたいとおっしゃっていたが、その受け皿をどう作っていくのがこれからの議論になる。

○ 委員

商売をしていると、アパートの空き家が増えたと感じる。住宅開発があれば人口が増える。

○ 委員

人口推計は過去のデータから計算したものだから、あまり意味はない。問題はどうかしたら外から人口が入ってくるかだと思う。

○ 会長

人口推計は量的に測っているのもあって、まさしく質がどうなのか。後半の議論になってくる。

○ 委員

市内をパトロールしていると、アパートや家の新築はあまり見ない。逆に空き家が増えてきた。今まで居た人が新しい家やアパートに移るだけで外から入ってくる人はあまりいない。

○ 委員

全般的に市内で高齢化が進むということがわかる。それを捉えて今後の地域づくりをどう進めていくか。

○ 委員

人口推計が多めに見ているのか少なめに見ているのか、それを踏まえて地域づくりの区割りを検討するのが必要だと思う。

○ 会長

現在の小学校区の区割りでこのような結果が出ているが、このままで行くとしてもこのような状況になるし、組み替えるとしても区域内で移動してしまえば変わらない。大きなトレンドとして見てほしい。

○ 会長

当面のスケジュールを説明してください。

【事務局】

資料2 説明

○ 会 長

ご質問をいただきたい。

○ 委 員

7地区同時にスタートするのか。モデル地区を作るのか。

【事務局】

基本的には22年度1年をかけて準備をさせていただいて、7地区一齐にスタートしたいと考えています。例えば1、2地区をモデル地区として23年度に先行させて、24年度には全地区がスタートする選択肢も考えています。

○ 委 員

地域自治組織設立準備会の内容、中身も7地区全く同じなのか？

【事務局】

基本的なもの、ベースはお示しします。そこに皆様方の地区の特色を加えていただきたい。構成員に行政としてこういう組織は入れてもらいたいということは申し上げますが、地域の特色に応じて別の団体を入れたいという話は当然あるはずです。

○ 委 員

田代地区の弥生が丘は将来独立することを前提に進めてほしい。区長会でも弥生が丘にはコミュニティの拠点となる施設がないので、それができるまでは一緒にやろうという話が出ている。実際に新組織が立ち上がる平成23年度には切り離さないと、田代地区では吸収できない。それまでに弥生が丘地区のコミュニティセンター（コミセン 公民館）を造るのか？

【事務局】

市民協働推進課としては田代地区のご了解が得られれば別々に話をさせていただくほうが良いと考えています。ただし、23年度までに弥生が丘にコミセンを造るのかと言われれば、私どもの範疇としては厳しい。基本的には田代地区と弥生が丘地区に分けて議論していただくのが本筋だと考えています。

○ 委 員

田代地区と弥生が丘地区を分けて議論しておくべき。今でも弥生が丘地区住民の公民館の利用が少ないので、弥生が丘は弥生が丘でやっていくべき。

【事務局】

拠点を地区公民館と位置づけているので、コミセンの建設と全くリンクしない話でもありませんが、別個に協議を進めていくので23年度までに弥生が丘にコミセンを建設するということにはなりません。前にも述べたように田代地区の合意が得られれば田代地区と弥生が丘地区を分けて協議をしていただいた方がよいと考えています。

○ 委 員

地域自治組織の設立にあわせて、どっちも先行投資でもしてコミセンを建設するほかないと思う。

【事務局】

その線で調整させていただきたい。田代地区にご相談させていただきたい。

○ 委 員

議会の答弁でも弥生が丘地区のコミセン建設については、今議論しているまちづくりとはほとんど関連がない。地区公民館の大規模改修工事が終わった後に財政に余裕ができれば、という財務的な問題だったと思う。弥生が丘にコミセンができるまでの当分の間、分離を前提に田代地区で構想を続け、コミセンができたときに分離していくことを考えておかないと、まちづくりありきでコミセンの建設というのは、われわれの委員会でやれる問題ではなからう。

○ 委員

地区で説明会をするときに、弥生が丘にコミセンを造ってくれという意見が必ず出てくる。弥生が丘は若さ、勢いが違う。弥生が丘の住民は取組みの姿勢が違う。

【事務局】

まちづくりに関して、コミセン建設の議論は私どもの範疇外ということを明確に申し上げます。先ほど申し上げた「その線で調整」というのは、田代地区と弥生が丘地区で各々構想を練ってもらうのがベストでしょう、ただしコミセンがいつ建設されるのか今の時点ではっきりしないため、経過的に弥生が丘地区が田代地区と一緒に活動してもらわなければならないという事実がありますので、そこは調整してもらわなければなりません。最初から田代地区と弥生が丘地区を分けて議論すると、コミセンの建設に関連して非常に難しい問題になるよ、というのであれば、一時割愛して田代地区でという話になりますが、それらは田代地区と協議させていただきたいということです。

○ 委員

田代地区では今まで弥生が丘地区と一緒にやってきたので、地区の了解が取れないと進めない。

○ 会長

今全体のスケジュールを見ながらも、個別案件が出てきた。これは大事なこと。私たちの役割は、地域の区割りや方向性をどうするかというものだが、そのなかで今のような田代地区と弥生が丘地区の問題などが出てくることもある。私たちは私たちなりに、結論は出さなくとも、それが論点になっている、とか、課題になっていることは十分承知している、ということは押さえておくべき。今の話で言えば、田代地区と弥生が丘地区の個別案件について課題があるとか、地域自治組織を立ち上げるスケジュールとコミセンを整備するスケジュールは別途だ、とか、それぞれを勘案しながらスケジュールを進めていくと、これはきつともめるぞ、というものは洗い出しておいたほうがいい。次の議論に引き継ぐ、あるいは次の議論の論点整理をしてあげるというのが私たちの大きな役割だと思うので、そういうのがあればどんどん出してほしい。

○ 委員

説明会の参加メンバーは？

【事務局】

全市民を対象に市報で広報します。

○ 会長

年度末に提言と説明会を実施するようだが、設立準備委員会を立ち上げる前に、既存団体が方向性を整理したり、自治組織参加への機関決定をする必要があるのでは？設立準備委員会は5月からの立ち上げを予定しているが、もう少しずれるのかなあと考えるが・・・。

○ 委員

町区の総会は大半は4月中旬までに行われるので、町区の問題はないと思われるが、各団体の総会の把握をしておかないと、メンバーが替わることもあるので、立ち上げの時期が少々ずれていく可能性がある。

○ 会 長

各団体の意思決定のタイミングやどういう手続きが必要かということが気になっている。

○ 委 員

民生委員の地区会長には、こういうものをしてほしいと既に話をさせていただいており、私もこの会議に出てもわかりやすいので、できれば早い時期にやってもらいたい。

○ 委 員

交対協は4月で人が替わり、実際に動き出すのは6月ごろ。

○ 委 員

老人会は4月に総会をする。

○ 委 員

消防団は年6回ほど幹部会があり、問題があればそこで協議する。事前に説明はしようと思う。

○ 委 員

P T Aは5月までには役員が入れ替わる。ただ説明があった翌年に役員が替わったりすると、難しいのかなと思う。

○ 会 長

前のメンバーが説明を聞いていて、新しいメンバーが「何だそれ？」とならないように、むしろ新メンバーが聞いておいたほうが良いというタイミングがあると思うので、それは配慮したほうが良い。

○ 委 員

社協は5月までには総会は終わる。

○ 委 員

婦人会も5月に総会が終わる。

○ 委 員

ズレがあるときは、充て職みたいに地区の会長がメンバーになるとか、そのような決め方をしておけばいい。

○ 会 長

そうすると各団体で22年度の役員を決めるとき、「これ、どうする？」と引き継いでおかないと、役員の入替わりがあったとき、「そんなこと聞いていない！」となったら、もめ事の火種になる。そんなタイミングも含めて、説明会を早い時期に開催した方が良いとか、遅い方が良いとか、また他の団体を考えると、設立準備会はもう少し後の方が良いとか、団体の猶予を見ながら最終的にスケジュールを考えていただくといいのかなと思う。このスケジュールはあくまで全体の大きな方向性であり、絶対ではない。

○ 委 員

基本構想案を練り上げるわけだから、余裕のある設立のやり方を頭の中に入れてほしい。

○ 会 長

場合によっては、われわれが提言書を出す前に気になるところに関しては、われわれが外に出て行って、タウンミーティングではないが、「皆さん、どう思いますか？」と質疑を出してみる必要があるかもしれない。

後で「聞いてなかった」とか「そんなはずじゃなかった」とか言われるのを一番気にしている。また「一斉にやる」というイメージがあまり強く出すぎると、「うちはそうじゃないよ」というイメージを持たれ易いので、それを可能な限り排除したいのと、拙速なイメージを持たれたくないので、タイミングを考えていかなければならない。福岡市でも自治協議会を立ち上げるときに地域から拙速すぎると怒られた。

それぞれの団体の意思決定のタイミングに配慮しながらやっていくことが大事だと思った。

○ 委員

このスケジュールを見ると、下部組織まで下ろしていく時間がない。消防団ではまず参加するかどうから始めなければならない。参加を前提に話されても困る。団員の意見を集約するのに時間がかかる。

○ 会長

まさに私はそれを心配している。説明周知期間をしっかりと確保しなければならない。

○ 委員

宗像で消防団の関わりを聞いたが明確な答えはなかった。消防団から役員には出ていたが、消防団ではなく自主防災組織がやるべきことだと感じた。消防団は地域に属する組織ではない。

○ 委員

5月から3月までの設立準備会ですり合わせしながら進めていけばいいのでは？例えば消防団で何ができるかということよりもどういう方を出してくれるか、それをまず設立の大きな問題として取り入れていく。設立の準備については、基本構想ができているから地区ごとに打ち合わせをしながら進めていけばいい。幸いにも民生委員は再来年の11月までの任期だから、来年は十分フルにやっていただける。このスケジュールでいいのでは？

○ 委員

区長会は大変だろう。一番大変だと思う。

○ 委員

私もそう思う。区長会が組織を動かす核となるから、大変だろう。

○ 委員

まずは現組織の中に入れ込んでいくのが大変。まず入れ込んでおいてそれから・・・

○ 委員

まず一番先に区長会が入ってもらわないと・・・。

○ 委員

区長会で行った宗像のコミュニティはそうじゃなく、全部の組織で作っていった。

○ 委員

この前の検討委員会で行った宗像の吉武地区は、上から声掛けて半強制的に作っていったような感じだった。昔ながらの部落でタテのラインがまだあったからできたのだろうけど、今の鳥栖ではそういうところはない。

○ 委員

各公民館には公民館運営委員会があって、区長会や学校、PTAなど大体の団体が入っている。そこでこういう組織化、コミュニティ構想を考えていると説明したほうがいい。

【事務局】

コミュニティ運営協議会は公民館運営委員会を発展させる組織だと理解しています。各種団体には説明をさせていただきますし、既に説明をしているところもあります。公民館運営委員会で説明をしたほうがいいのか、皆様の出身である活動団体に説明をしたほうがいいのか、皆様の知恵をお借りしながら検討していきます。

○ 委員

各団体に一つひとつ説明するよりも、ある程度の団体を網羅し、コミュニティ運営協議会に移行する公民館運営委員会で説明をする方がいいと思う。

○ 会長

唐突感を緩和するためにも、できる話は早め早めに出していった方が考える時間もできるし、手の打ちようもあるかもしれないし、しっかりした議論をする場を改めて作ることができるかもしれない。委員の皆さんにも早めに出した方がいい取組みがあれば、事務局にご相談していただきたい。

それでは中身の説明に入っていくが、資料3について事務局から説明してください。

【事務局】

資料3 説明

○ 会長

宗像を視察して、宗像の良かったところ、逆に難しいところを聞かせてほしい。

○ 委員

鳥栖の方がいいと感じた。鳥栖市の今の組織で十分だ。運動会も小学校と一緒にしているらしいが、鳥栖市はずっと前から地区の運動会を実施している。なぜ組織を変えるのかいまだに疑問。鳥栖市の今の組織で十分。ただ、最後に先方の会長が言った「スリム化」という言葉が印象的だった。行政のスリム化よりも区長会のスリム化だと受け止めた。

○ 委員

私は2カ所のコミセンに伺った。設備の素晴らしさに驚いた。鳥栖市があのようにできるのか疑問に思っている。宗像のような組織を作って今の公民館や老人福祉センターで賄えるのか？今の若葉コミュニティセンターでは目一杯むしろ足りないくらい。鳥栖市があのような施設を作ってくれるかどうか問題。

○ 委員

区長会で行ったコミセンは建設費7億円。この委員会で行った吉武地区はコンパクトで少し田舎かなという感じがして、基里地区は参考になった。吉武地区を見ると、区長が組織化の旗振りをやるのかなあと感じた。ただ疑問に感じたのは、コミュニティ役員の任期が1年だということ。多分やりたくないから1年なのだと思う。

○ 委 員

コミュニティ会長の手当が月2万円。誰も引き受けない。ただ事務職員を6名雇っていた。鳥栖市の公民館は2人。

○ 委 員

事務局がどのような陣容で構成されているかとか、部会が5つも必要かとか今から検討されなければいけない。最初は3つくらいの部会でスタートして、必要に応じて増やしていく、ようなことも必要かと思う。

○ 委 員

宗像の場合、主管課は市長部局のコミュニティ課。鳥栖市の場合も主管課が教育委員会から替わらないと動かないと思う。健康づくりや公民館にある地区社会福祉協議会が合体してくる。それと会長2年役員1年の任期ではどうにもならない。鳥栖市は鳥栖市なりに考えていくべき。

○ 委 員

視察の際、宗像の取組みは鳥栖市の公民館で従来からやっているものと変わらない、という話があった。これから変わらないといけないのかなあとと思った。地域分権は全国の流れだから取り組まないといけないのかなあとも思った。またコミュニティ会長の手当が月額2万円だからなり手がないだろうと思う。活動拠点が公民館と老人福祉センターとなっているが、一番新しい若葉でも10年経っている。平均で築24年。どれも古いので市が考えるサービスができるか疑問。

○ 委 員

今鳥栖市がやっている公民館活動とコミュニティ活動はどう違ってくるのか。利用料がコミュニティの収入になることも打ち出していたが、その啓発活動もしていくのか。そうなってくると今の公民館の状態ですら今以上のことができるのだろうか。啓発や活動は役員だけが頑張っているという宗像の言葉には鳥栖と同じような現状を感じた。

○ 委 員

色々な意見が出ているが、噛み合っていないような感じを受ける。それは明確な目的がないから。

○ 委 員（複数）

賛成。

○ 委 員

宗像のコミュニティは鳥栖市の公民館活動と組織的にも内容的にも変わらない。私自身活動をしていくなかで、ある問題が起き、市役所に行っても、別の部署に行っても、持ち帰って自分たちのグループに投げかけても明確な答えが出ない、でも困っている人はそこにいる、といったときに公民館に行けば地域のことにってはある方向性が見出せる、そういうものを今作ろうとしているのではないかとしみじみ思っている。例えば環境保全の活動で二酸化炭素については環境対策課へ、土地に関しては土地改良区へそれぞれ尋ね聞いているが、地域全体で取り組むことが解決の第一歩なのだということが見えてきた。地域コミュニティを新たに作れば、私たちが個人個人で鳥栖市を良くしようとする思いと合体できそうな感じがする。拠点となる建物が古かったり色んなことがあるかもしれないが、みんなで取り組めば一挙に解決すると思う。そういう組織にすればわざわざ市役所まで行かなくても、コミュニティで解決するのでは。

○ 委員

私自身鳥栖市のため、地域のために何かしたいと思っている若手のひとりだが、地域のために組織を作るのであれば、したいと思っているのにできない人を取り込んでいく仕組み、また参加したくないと思う人を啓発していく仕組みさえ作れば、既存の組織からつくる組織でもやっていけるのではないかと。行政のスリム化、予算の削減が明確な目的であれば、既存の組織から作り変えることに納得いくが、地域での協働が目的であれば、既存の組織の形を変えるだけでは効果は疑問だ。したいのにできない人を取り込んでいく組織のあり方、地域づくりのボランティアや障がい者団体といったメンバーを取り込んだ構成のあり方にしないと市民協働に繋がらないのではないかと。既存の組織から新しい組織を作っても区長会や他の団体で頑張っている方が引き続き頑張らないといけない。それだったら、むしろ今のままで市民協働の意識改革を進めていったほうがいい。

○ 委員

これから高齢化していくので、これからは若い人が入ってもらわないといけない。今のままだと協働への意識もはっきりしてこない。協働を意識化させるアピールの方法があるのではないかと。

○ 委員

協働への意識付けをアピールする方法がこの新しいコミュニティ組織のあり方かというのと、私もまだ明確にはわからない。ただ何らかの仕組みは作らないといけない。

○ 委員

私はこのコミュニティは絶対必要だと思う。皆さんは小学校区とどう繋がっているだろうか。地区の婦人会はほぼ消滅、老人会も各町区にほとんどあるが市の連合会に全て入っているわけではない。区長会として行政からの情報を伝えるのが大変。地区の老人会会長や子どもクラブの会長に話をしたり、地区社協、民生委員、区長と協力したり、ボランティア団体とも相談したり、なかなか大変だ。コミュニティに役員が集まって、スパッと情報を伝えられる組織を作ってもらいたい。

また独居老人の見守りなど民生委員はたくさんの仕事を持っている。それをみんなでやろうというのがコミュニティの一番良い所。平成17年に宗像視察の後、基里地区に自治組織を作ったのもそういう理由から。ただコミュニティへの移行時には多くの問題があろうが、それを一つひとつ1年間かけて作っていかないと、今からの10年後の高齢社会を考えると冷や汗が出る。いろんな人が協働していくことが近い将来絶対必要になる。コミュニティに集まったとき、一人が言えば全部の団体に伝わり、全部の団体が協力しようというのがコミュニティの一番のメリットではないだろうか。全ての団体が同じ目線、同じレベルでみんなでやっていけばうまくいくと思う。コミュニティへの移行は非常に難しいと思う。だがそれを何とか乗り越えないと協働というものはできないと思う。

○ 会長

ここまでの話を聞いて、前回宗像視察に参加できなかった委員のお二人の感想は？

○ 委員

話を聞いていると先々大変なことが待っているのを感じるが、やってみることで先が良くなることも感じる。

○ 委員

話を聞いていると、今すでに鳥栖市の公民館でやっていることを宗像がしているようだが、いいことだと思う。ただ、末端まで届けるにはどうしたらいいのか。

話は変わるが、ある地区で婦人会を立ち上げたいという話が出たが、婦人会を辞めた役員から「止めたほうがいい」と言われたようだ。そのようなことは言わずに、婦人会はあったほうがいいよね、みたいなアドバイスをしてくれればよかった。

○ 会長

事務局から補足などあるか？

【事務局】

明確な目的がわからないというお話がありました。地方分権で基礎自治体である市町村にまちづくりの主体が移ってきている大きな流れの中で、行政だけでなく、住民の皆様のお知恵を拝借しながら皆様と一緒に魅力あるまちづくりを行っていききたい。それは冒頭の「鳥栖に戻ってきたい」ということにも繋がってきます。これからは行政だけではダメで市民参加のまちづくりを進めていかなければならないという認識を持っています。

それと行政のスリム化、予算の削減というお話もありましたが、地域自治組織に対する予算の総枠的な削減は基本的に有り得ないと思っています。行政のスリム化は地域自治組織の設立で一時的には達成できるかもしれませんが、行政は新たな公共サービスを担っていきます。ですので、担当課としては行政のスリム化、予算の削減という考えは持っておりません。あくまでも市民の皆様と一緒にまちづくりを進めていききたいという信念だけです。

また公民館活動と内容が変わらない、というご指摘ですが、まさにそのとおりです。例えば公民館で行っている生涯学習事業と、老人福祉センターで行っている老人の生きがい活動推進事業というものの中身は一緒です。これは縦割り行政の弊害です。これをフラット化して横割りでやっていただきたい。結果的にメニューは生涯学習事業と一緒にかもしれませんが、内容的には違ってくるはずだと考えています。

あと、施設の話ですが、既存の公民館・老人福祉センターの利活用を考えており、新しく建設することは考えていません。その際にどの程度まで対応できるかこの場では断言できませんが、施設の間取りの変更が出てくるとは想定しています。

それと目的と繋がりますが、地域のセーフティネットを再構築していただきたいということもあります。現在の市民協働の動きは、阪神淡路大震災で行政だけでは手に負えなかったことがきっかけとなっています。地域でセーフティネットを再構築して、地域でできることは地域で、地域と行政が共にやっていけるものは協働し、行政がやるべき事は責任を持って行政がやっています。

ひとつの例として、「家の前の道路に大きなミミズが死んでいるから片付けてくれ」というのが市民と行政の関係です。昔であれば自分で片付けたり、自分でできなければ近所の人が片付けてくれたりしたのですが、それを市道管理ということで行政に依頼する。行政は断れず、ミミズを撤去にいく、そういう関係になっています。コミュニティを作るうえで、そのような意識の改革もやっていききたいと考えています。

○ 会長

ミミズの撤去にもわれわれの税金で人件費が払われている。それでもOKですか？ということ。

さて、一通り聞いて「明確な目的がない」ということが一番大きなところ。皆さんの話や事務局の説明を聞いて考えたが、3つほど目的があるようだ。まず一つ目は、率直に一時的には行政及び行政区のスリム化という目的がある。はっきり言って、ある。予算の再配分という意味でスリム化。大きな枠組みは維持しながらも中身の使い方を考えようということ。ミミズの撤去に予算を使うのか、ということ。

○ 委員

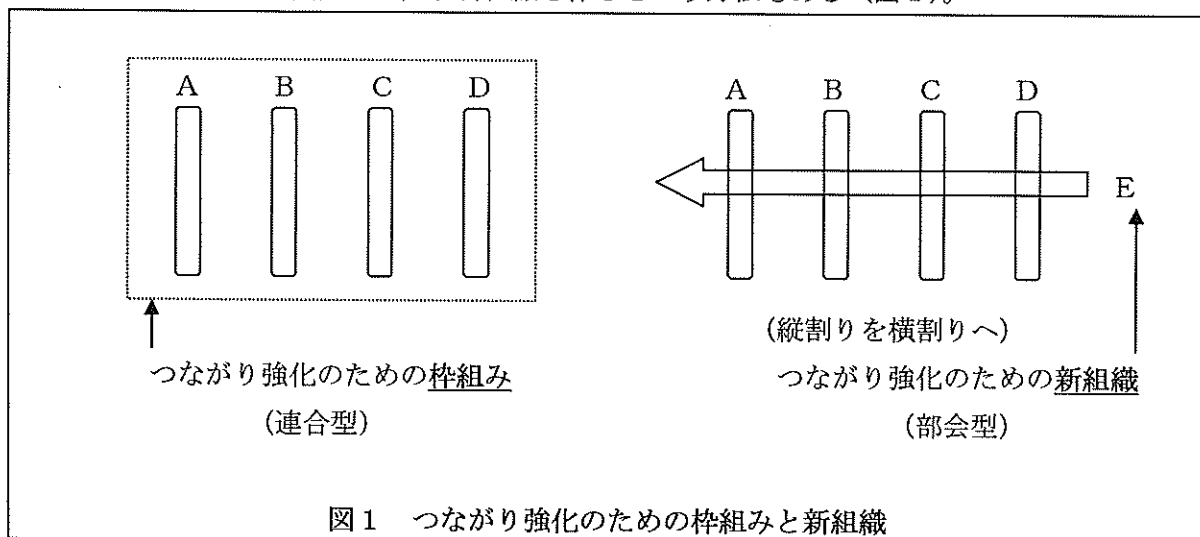
ミミズの撤去を今度はコミュニティに言ってくるかも？

○ 会長

それを地域でどうするかだ。宗像はそこに人件費を払っている。専任職を置いて地域で払おうとしている。

2つ目は高齢化を乗り切るため。担い手が高齢で動けなくなつてはダメなので、いろんな年代の人が入って来やすくするとか、高齢は高齢なりに力を合わせてどうするかということを考えないといけない。

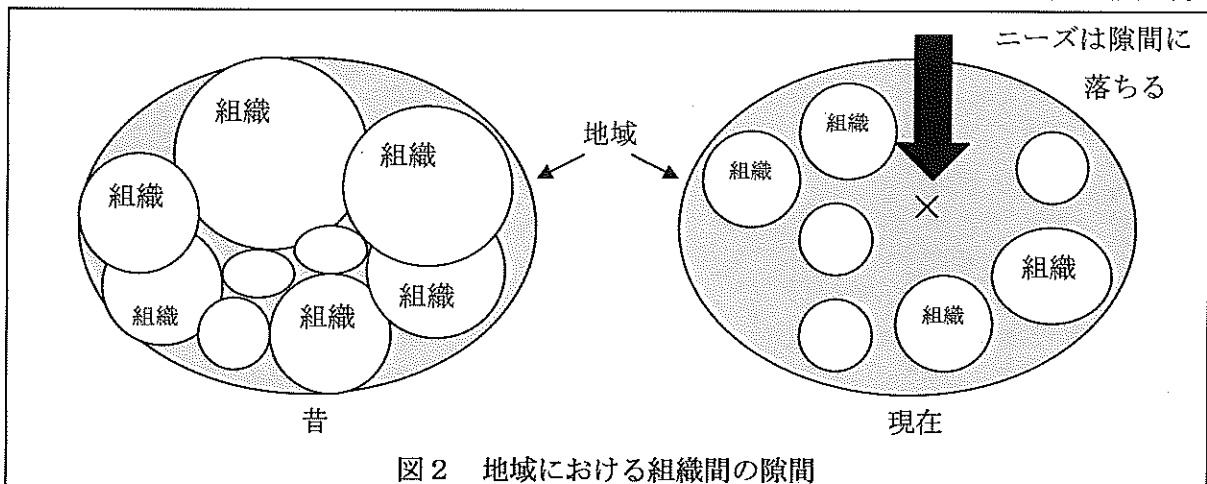
3つ目は地域の繋がりを強化してモレを少なくする。モレを少なくするために大同団結する必要が出てきている。各々が役割以上のものまで目を届けていれば「隙間」は小さいだろうが、今はその「隙間」が大きすぎるのではないか。その「隙間」を行政が「ミミズの撤去」を含めて埋めているところがあるのだろうけど、それでいいの？ということ。行政はもっと他にやるべき事があるのではないか、市民の命や財産に関わることもっと優先順位の高いことがあるのではないか、ということ。そのつながりを強化するために既存団体を一つにくくる枠組みだけ方法もあれば新たに縦割りを横割りに直す新組織を作るという方法もある（図1）。



現に福岡市が行っている自治協議会のスタイルは、連合型と部会型の2つの雛形を示して地域に合う方法を選びなさいという方法を取っている。

皆さんのお話の中には枠組みや新組織がいらないというものもあるが、地域住民が「モレ」ずに、地域のことができるのであればそれでいい。ただモレている地域住民やマイノリティがいたり、困っている障害をお持ちの方や子どもがいたら、その隙間を埋める方法は何かないのか、と心配するところだ。

今その隙間が大きくなっている。昔は組織一つひとつがあって、組織同士が重なって活動していたところもある、いわば骨太の状態だが、今は骨粗鬆症状態で隙間がたくさんある状態(図2)。



自分の団体の役割だけで一生懸命で、他のところへは目が行かなかったり、関心がなかったりする。

地域における新しいニーズや課題は、不思議と組織の上に落ちてくれずに、隙間に落ちる。これが怖い。隙間にたくさんの人が落ち始めると、地域は崩壊する可能性がある。

さて、今日はここでジャッジし、決定するのではなく、今後も議論は続く。ただ目的が明確化されていないとなると、私たちは持ち帰って他の人に説明できない。説明するかしないかも含めて、目的を明確化するため、次回議論を深める必要があるのかなと思う。行政が何をしようとしているのか、逆に私たちが何ができるのか、隙間をどう埋めるのか、高齢化の進む10年後をどうするのか。率直に包み隠さず、本当の、本音のところ、宗像で聞いたのと同じように「予算のスリム化」というものが目的にある。実際やったらそうなる。それを前提に話をしよう。その前提がおかしいというのであれば、もう一度目的の議論をする必要がある。

○ 委員

移行するにしたがって行政がスリム化していくのは事実。公民館では婦人会や老人会、体協や交対協の人たちと世間話をするのでいろんな情報が入ってくる。現状は何かあれば役所のそれぞれのセクションに行かなければならない、情報が流れてこないというが、まず公民館に行ってみる、それで解決しなければ〇〇に行ってみたら、とアドバイスがもらえる。公民館は地域の拠点となるならば、第一段階としての役割は果たせるのではないかな。

地域を活性化するためにもっと公民館を活用することだ。今の社会教育のなかでの取り組みであれば無理だ。コミュニティができたので所管換えをするのではなく、まず行政で所管換えをしておくべき。

○ 会長

今日はジャッジするところまでのレベルではない。範囲を小学校区で、というのはあくまでも仮説で、取り掛かりとして出したもので、決定ではない。

○ 委員

鳥栖市として建物を建てないならば、拠点は今の公民館しかない。だが人口などを考えたとき、例えば鳥栖と鳥栖北でもうひとつのコミュニティセンターを造るといったことも検討しなければ

ならないだろう。

○ 会 長

今回は新しい組織を作る効果（メリット）、やっぱり現状のままがいいという効果（メリット）をもう少し掘り下げて考えて、いろんな角度で議論しよう。次回までに各々の所属団体やその周辺で議論していただきたい。どう感じるか、何が地域で心配になっているのか、何が先々論点になりそうなのか、弥生が丘地区みたいに個別具体的なことを早め早めに出していきたい。お互いわかっていないと思うので、お互い出し合っていこう。自分の組織はわかっているけど、他の組織はわかっていないはず。お互いもっと知り合うためにやる。それを出さないと嘯み合わない。そのなかで目的も共通項が見つければ、われわれもそれを掲げよう。

○ 委 員

コミュニティ作りを初めからダメだということではなく、コミュニティを作るためにはどうあるべきかということを経営の目的としながら、これは現状維持でよい、これはやめた方がいい、だから作るのだ、といった建設的な議論をしたい。住みよい街づくりのためにいろんな意見を出し合っていきたい。

○ 会 長

今回のことも含めて、その他を事務局から説明をお願いします。

【事務局】

資料4 説明

○ 会 長

不安な点があれば事務局にご連絡いただきたい。これで第3回の委員会を終わります。

終了（15：45）